

《住民参加の資源化・減量化計画》次期ごみ処理施設に役立てる

中間報告書提出



▲山口公久管理者へ中間報告

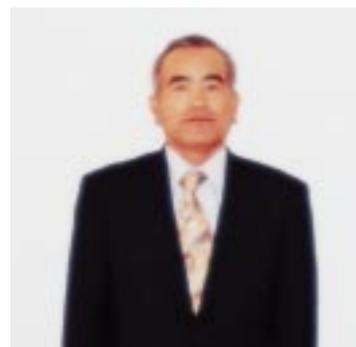
現段階では、住民参加型の資源化・減量化を図っていくことが重要課題であるとし、財政負担が少なく直ちに実施できる事業を検討中であること。また、平成15年12月の管理者提言前であっても、行政側では委員会の検討内容を踏まえ実施可能なものから実施していくことを中間提言しました。

～委員長さんから～

ごみは人間が生活する限り発生します。自分たちが出したごみは自分たちのところで処理するのが原則だと思います。

増え続けるごみの資源化・減量化に向けて検討していますが、絶対的なものはありません。一人ひとりのちょっとした心掛け次第で大きな成果がうまれます。

立派な処理施設も必要とは思いますが、まずは自分たちがすぐできる簡単なことから始めましょう。



▲石下福一郎委員長

宇都宮大学との「次期ごみ処理施設の立地調査及び新施設の研究中間報告書」は、下記市町・公民館・図書館で閲覧できます。

矢板市環境課・塩谷町住民課・氏家町生活環境室・高根沢町環境課（ホームページにも掲載）・喜連川町住民課・塩谷広域行政組合管理課

「ニュースレター」及び「ごみ処理行政」に対するご意見・ご提案等をお気軽にお寄せください。

問い合わせ先

〒329-1572 栃木県矢板市安沢 3622 番地 1
塩谷広域行政組合 管理課 斎藤・阿美・印南・佐藤
TEL.0287-48-2760 FAX.0287-48-0463
E-mail:shioya-kanri@gamma.ocn.ne.jp